



鳥取県教育センターだより

Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321 (代表) 【FAX】0857-28-8513

【URL】http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/ 【e-mail】kyoikucenter@pref.tottori.lg.jp

自己成長の実現をめざして ~基本研修/最終回より~

1月30日の中堅教諭等資質向上研修を最後に、本年度の基本研修が終了しました。基本研修での学びを次のステップにつなげ、自己成長を続けていただければと思います。

次年度は、今後新たに示される「校長及び教員の資質の向上に関する指標」と「指標」を踏まえた研修計画をもとに研修が行われます。新たな研修体系のもと、教職員個々のキャリアステージに応じて求められる資質・能力の育成をめざした研修を行っていきます。

【初任者・新規採用教員研修】

—平成30年1月25日(木)—
大雪の影響で急遽午後からの開催となりました。最後の講義では、中部教育局の小林研志局長より「これからの教師に望むこと」と題して、主体的・対話的で深い学びの視点から授業を磨いていくことの大切さや、子どもたちの命・安全を守っていることへの自覚について等、教師として大切にしたいことをお話していただきました。理科の実験をとおして、対話的に講義を進められる等、対象者にとってとても分かりやすく、2年目に向けて具体的なイメージをもつことができました。

【2年目研修】

—平成30年1月16日(火)—
2年目研修のテーマ「授業づくり」をもとに、対象者が1年間を通じて実践してきた課題研究の成果と今後の取組を、グループ別で発表しました。対象者はそれぞれ単元構想を考え、発問の精選や教材の工夫、教室環境の整備など、児童生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりについて協議を深めることが出来ました。

【3年目研修】

—平成30年1月23日(火)—
前半は、課題研究発表として3年目研修のテーマ「人間関係づくり」をもとに、各自が1年間研究してきた成果を発表しました。後半は、湖南学園中学校の片山敬子校長から「これからの教師に期待すること」と題し、講義をしていただきました。謙虚に学び続ける姿勢や学校組織への積極的な貢献、同僚性から協働へ『チーム学校』を意識することなど、これからの教師として求められる幅広い視点でお話をいただきました。



【5年目研修】

—平成30年1月19日(金)—
日本海テレビジョン放送株式会社の福谷貞夫氏の講義「視野の拡大と自己成長」では、ニュースキャスターとして、相手が誰であっても自尊心を傷つけるような言葉は使わない、良い人間関係を築くために言葉の力を磨く、日常に感動する、準備8割・本番2割など、教育現場にも通じる話をしていただき、対象者にとって大変参考になりました。

※【中堅教諭等資質向上研修】の様子については、県教育センターHPに掲載します。ご確認ください。

【研修情報】

専門研修「小学校道徳」～赤堀博行前調査官の講義より～ 平成29年11月24日 於.とりぎん文化会館

「特別の教科 道徳」が、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度に全面実施となります。既に各学校で全体計画及び年間指導計画等の見直しが進められていることと思います。このような状況を踏まえ、昨年11月に実施した専門研修「小学校道徳」の内容について紹介します。研修は、文部科学省前調査官で、帝京大学教授の赤堀博行氏にご指導いただき、教科の背景や評価のあり方、さらには『考え、議論する』道徳科の授業づくりについてご指導いただきました。その中で、下記の2点について紹介します。

教育改革国民会議報告(平成12年)
学校は道徳を教えることをためらわない
→学校は道徳を教えることをためらっていないのではない。
人生経験豊かな社会人が教えられるようにする
→学校の教師だけでは不十分ではないか。

教育再生会議(平成19年)
徳を「教科」として充実させ、自分を見つめ、他を思いやり、感性豊かな心を育てるとともに人間として必要な規範意識を学校でしっかり身に付けさせる。

義務教育：子供に受けさせなければならない教育(日本国憲法 第26条)
すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する

道徳(道徳の時間)の教科化

- 全ての学校で、全ての先生が同じ程度に道徳教育、とりわけ道徳の時間の指導をできるようにならないか。
- 全ての子どもたちの手元に教科書が行き渡れば、どの学校でも同じ程度の道徳教育が行われるのではないか。
- 道徳の時間の指導の結果を明らかにして、指導の改善を図れるようにする仕組(評価)をつくれば指導の充実が図れるのではないか。

教科化になった背景

考え、議論する道徳

考える
主体的に
自分との関わりで

主体的な学び

多様な考え方、
感じ方と出合い
交流する

対話的な学び

自分の考え方、感じ方を
明確にする

自分との関わりで

自分の考え方、感じ方を
より明確にする

主体的に

<子どもが主体的に道徳性を養うための指導の工夫>

- 自らが振り返って成長を実感できるように工夫する
- これからの課題や目標を見付けたりすることができるような工夫する

道徳性を養うことの意義について、子ども自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

- ◆ 自分との関わりで道徳的価値を考える授業
- ◆ 自分との関わりで多面的、多角的に考える授業

<条件1>

**効率的・効果的で
焦点化されていること**

既存の研修にプラスされるのは難しい。これまでのように、担当学年や教科の輪番によるルーティン化された研究授業のスタイルではなく、研究部の方で、学校の課題に直接連動する単元や場面を指定して、該当学年に研究授業を実施もらうくらいの大胆さが必要である。



<条件2>

**エビデンスに基づく
ケーススタディであること**

自校の課題を協働により明らかにすることが大切である。全国・学力学習状況調査の平均正答率の分析を「学校で」する必要があるのか再考してもよい。ポイントは『正答の条件』と『誤答の実際』を明らかにすること。自校の課題を解決するためのモデルづくりの場にしていきたい。

<条件3>

**拝聴型から
参加・参画型であること**

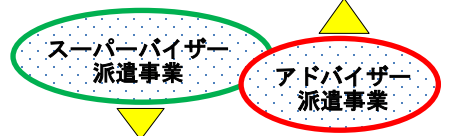
話や説明を聞くことの多いこれまでの研修スタイルの効率を問い直したい。校内の教員すべてがカリキュラム・マネジメントの主体者であるのならば、研修したことが即、授業実践へとつながることを意図することが必要である。そうすることで、研修参加意識の向上を図ることができる。



学校教育支援事業は自主的・主体的な研修活動を支援しています！

▼ H29年度 スーパーバイザー派遣事業 実施校一覧

県内学校、幼稚園・保育所(園)の教職員で構成される教育研究実施団体が開催する研修会に講師を派遣しています。今年度は41研究実施団体に、のべ71件の派遣を行い、研究推進を支援しました(派遣予定も含む)。その具体的な内容・成果については、後日、当センターのHPに掲載しますのでご覧ください。



県内の小・中学校、特別支援学校あわせて12校に、大学教授等の講師を派遣しています。スーパーバイザーに年間を通して校内研究に関わっていただけるので、学校の課題に合った指導助言を継続的に受けことができ、校内研究が着実に推進されています。

各学校、研究団体における研究推進のために本事業の活用をご検討ください。

No.	学校名	研究テーマ	スーパーバイザー		
			所属	職名	氏名
1	鳥取市立美保小学校	笑顔とやる気にあふれた子どもの育成～道徳と特別活動で子どもを育てる～	畿央大学 教育学部 現代教育学科	教授	鳥 恒生
2	鳥取市立岩倉小学校	主体的につながりあい、学び合う授業づくり	鳥根県立大学短期大学部	客員研究員	山田 洋平
3	鳥取市立散枝小学校	自分の考えを表現し、学び合い高め合う放課下の子の育成～できる、分かる、楽しい！算数科の学習を通して～	鳥取大学	副学長	矢部 敏昭
4	米子市立啓成小学校	主体的・対話的に学ぶ子どもの育成～安心・安全で自治的な学びを通じて～	岡山大学大学院 教育学研究科	教授	佐藤 暁
5	鳥取市立南中学校	教科の本質にせまる実践的なUD授業の確立(3年次)～考え・練り合い・表現する力の育成～	明星大学 発達支援研究センター	研究員	京極 澄子
6	鳥取市立湖東中学校	「生き方考える教育活動の実践」～自律し、自立する生徒の育成を目指して～	日本体育大学 児童スポーツ教育学科	教授	角屋 重樹
7	鳥取市立河原中学校	生徒が主体となる授業の創造～「協働力」を基盤とした学力向上の取組～	上越教育大学教職大学院	教授	赤坂 真二
8	湯梨浜町立北濱中学校	お互いを認め合い、伝え合い、高め合う授業づくり～人間関係づくりを基盤とした主体的・対話的で深い学びを目指して～	高知大学教育学部 附属教育実践総合センター	准教授	鹿嶋 真弓
9	米子市立尚徳中学校	「学び合い、語り、つながる生徒の育成」～仲間とともに主体的に高め合う活動を通して～	学びの共同体研究会 かわらち学座	スーパーバイザー	馬場 宏明
10	県立皆生養護学校	発達や障がい特性に応じた指導・支援～感覚と運動の高次化理論を活用した指導・支援の充実～	淑徳大学 発達臨床研究センター	准教授	池畑 美恵子
11	鳥取市立神戸小学校(江山中学校区)	自信と活力に満ちた児童・生徒の育成～伝え合い、学び合い、高め合う職員集団をめざして～	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科	教授	浅野 良一
12	鳥取市立中ノ郷中学校	「自考と学び合いを通して確かな学力を育み、生徒とともに創り上げる学習活動」～教科会の強化と積極的な授業公開によって～	大阪教育大学 教育学研究科	教授	木原 俊行

※2月15日・16日の鳥取県教育センター研究発表会で、今年度のスーパーバイザー派遣事業の成果を発表します。ぜひ、ご参加ください。

飛耳長目

「飛耳長目」とは、「物事の観察に鋭敏で、見聞が広く精通していること。観察力や情報の収集力があり、物事に通じていること」を形容した四字熟語である。この言葉に関連して、かつて「飛耳長目録」と呼ばれるものが存在していた。それは、優れた人材を続々と輩出した松下村塾で有名な吉田松陰が、毎日のニュースを書きつけたメモである。

吉田松陰が松下村塾を開いて弟子たちを教育したのは、わずか一年半か二年の期間であったにもかかわらず、これだけの短い期間に、なぜあれだけの英雄たちを次々に排出できたのだろうか。実は、そこには、松陰自身の指導者としての優れた資質だけではなく、彼自身のすさまじいばかりの日常の積み重ねがあったということ、を、「飛耳長目録」と呼ばれるメモを通して垣間見ることができるのである。

彼の教材の種は、全てその日のニュースであった。それも政治や経済だけではなく、文化面や芸能ニュースまで広く関心を持ち、高い次元から低い次元までの一切を含んだニュースを素材として、毎日毎日の出来事を教材にしていたのである。彼は今でいう新聞のベタ記事も、テレビのスポットニュースも決して見逃さなかった。松陰にとっては、程度が高いとか低いとかは問題ではなく、生きた人間の営み全てがテキストであって、生きた教材だったのである。そして、弟子たちに「教材と日常生活との接点を実感させること」に、彼は一番心を砕いたのであった。

所長 小林 傳